

株式会社 構造ソフト

今月のイチオシ

2025 年 8 月号

拡張情報

「BUILD.一貫VI」・・・P1

Q&A (適判等からの指摘事例)

「BUILD.一貫VI」Q&A・・・P4

◆「BUILD.一貫VI」

・「BUILD.一貫VI」で利用できる既製品柱脚

「BUILD.一貫VI」では、以下の既製品柱脚を使用することができます。

製品名	会社名 (五十音順)
I S ベース	アイエスケー株式会社
ベースパック セレクトベース	旭化成建材株式会社・岡部株式会社
ジャストベース	コトブキ技研工業株式会社
ハイベース N E O スーパーハイベース P I N ベース	センクシア株式会社
N C ベース P	日本鋳造株式会社
フリーベース	フルサト工業株式会社

それぞれの既製品柱脚の特徴は、柱脚メーカーのホームページを参照ください。

I S ベース

<https://www.isbase.jp/>

ベースパック

<https://www.b-pack.net/>

セレクトベース

<https://www.select-base.net/>

ジャストベース

https://www.kemco.co.jp/pro_kenzai/kenzai_top.html

ハイベース N E O、スーパーハイベース

<https://www.senqcia.co.jp/products/kz/columnbase/hibaseneo/>

P I N ベース

<https://www.senqcia.co.jp/products/kz/columnbase/pinbase/>

N C ベース P

<https://www.nipponchuzo.co.jp/nckp/>

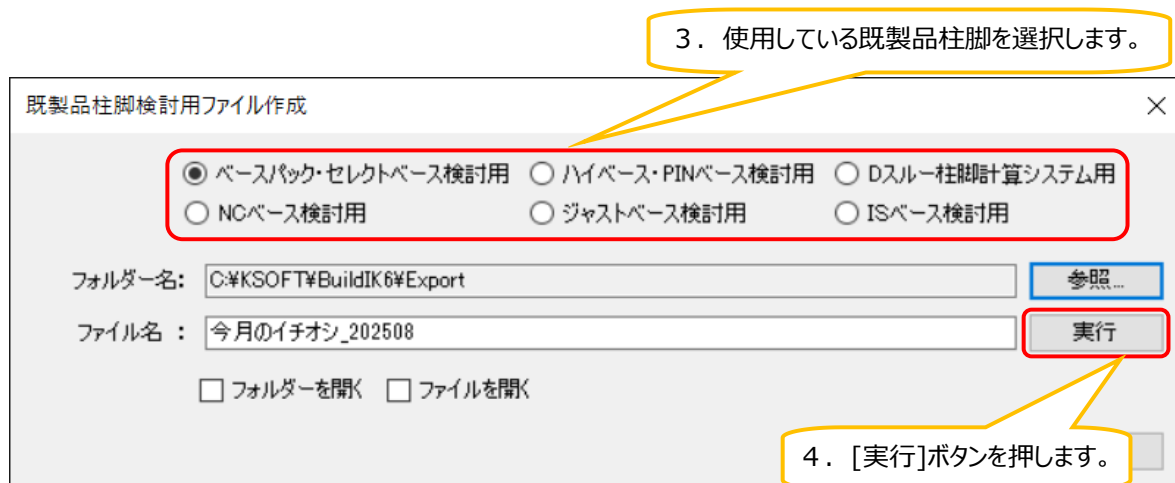
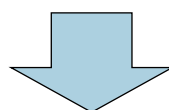
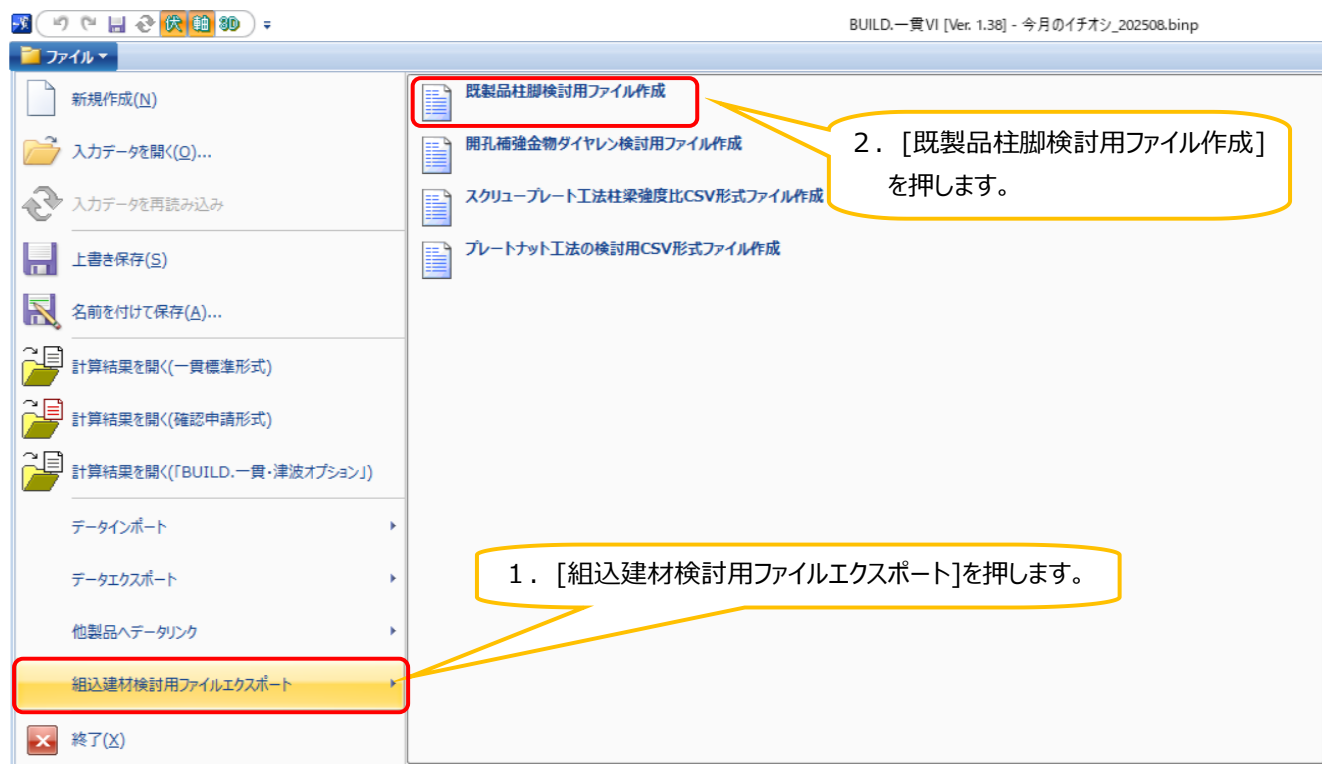
フリーベース

<https://www.fab-navi.jp/lp/freebase>

・柱脚メーカーの柱脚検討用プログラムで使用するリンクファイルの作成方法

既製品柱脚を使用している物件について計算を実行した後、柱脚検討用プログラムで使用するリンクファイルは、以下の手順に従って作成できます。

1. リボンメニューの[ファイル]メニューの[組込建材検討用ファイルエクスポート]を押します。
2. [既製品柱脚検討用ファイル作成]を押します。
3. 使用している既製品柱脚を選択します。
4. [実行]ボタンを押します。



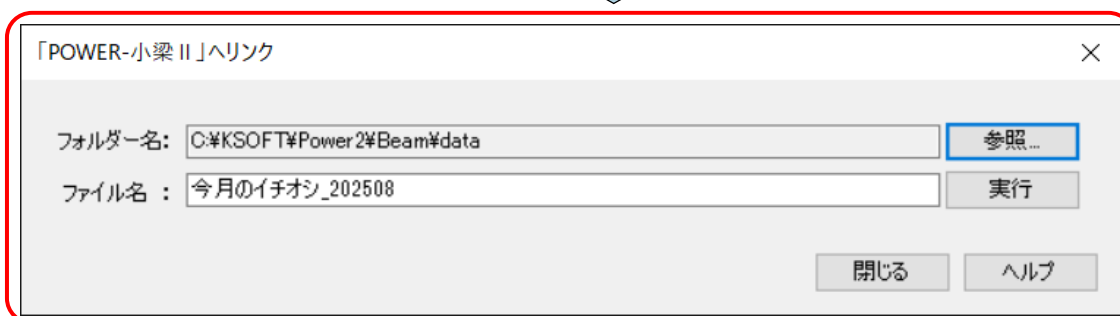
・弊社の他製品へのデータリンクの方法

「POWER」シリーズへのデータリンクについて、[「今月のイチオシ」2024 年 1 月号](#)で紹介しましたが、画面構成を変更し、[他製品へデータリンク]としています。以下の手順で弊社の他製品へのデータリンクを行うことができます。

1. [他製品へデータリンク]を押します。
2. データリンク先の製品を押します。
3. 各データリンクの画面に従って、データリンクします。



1. [他製品へデータリンク]を押します。



3. 各データリンクの画面に従ってデータリンクします。

※1 データリンクに応力解析結果を用いる製品の場合は、事前に計算実行を行う必要があります。

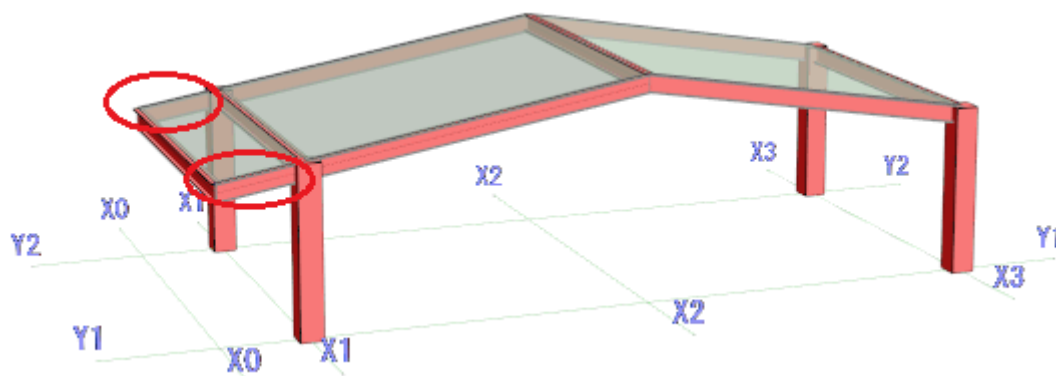
※2 「POWER-小梁Ⅱ」「POWER-スラブⅡ」「POWER-直接基礎Ⅱ」「POWER-杭基礎Ⅱ」へデータリンクを行うためには、あらかじめ「BUILD.一貫VI→POWER リンク (BUILD.一貫VIアドオン)」をインストールする必要があります。

◆「BUILD.一貫VI」Q&A (適判等からの指摘事例)

タイトル：保有水平耐力計算で傾斜梁の軸力が非常に大きくなっている箇所があると指摘された

Q. 計算ルート3の物件に関して、保有水平耐力計算において、傾斜梁に非常に大きな軸力が生じている箇所があり、適合性判定機関より、なぜ大きな軸力が生じるのかとの指摘を受けました。

例えば、下図で赤く印を付けた梁の軸力が非常に大きな値となりました。この現象の原因と、対処方法について教えてください。



A. 片持ち梁を大梁でモデル化していることが、軸力の過大発生の原因となっています。

この場合、梁先端が自由端の状態でありながら剛床に属したままになっていると、梁に大きな軸力が生じることがあります。

保有水平耐力計算における剛床仮定では、水平方向の変位は生じないように拘束されますが、鉛直方向の変位は拘束されていません。そのため、鉛直変位による梁の軸力が算出されます。水平変形が拘束されている状態で大きな鉛直変位が生じると、計算上、梁に過大な軸力が発生することになります。

梁の軸力を過大にならないようにするには、剛床解除が必要です。剛床解除することで、水平方向の拘束がなくなり、拘束によって生じる軸力が低減されます。

ただし、デフォルト（入力を省略した場合の設定）では、梁の水平面内剛性、ねじり剛性、柱のねじり剛性が設定されていないため、剛床解除すると節点に作用する水平力に対する抵抗要素が少なくなり、不安定になりやすくなります。

したがって、剛床解除する場合は、梁の水平面内剛性、ねじり剛性、柱のねじり剛性を設定することで、不安定となることを回避してください。

梁の水平面内剛性、ねじり剛性は、入力項目ツリーの[解析モデルの補正]-[大梁の水平面内剛性・ねじり剛性（部材毎）]（テキスト入力時は、許容応力度計算データの[S A C 1]）で設定できます。柱のねじり剛性は、入力項目ツリーの[解析モデルの補正]-[柱のねじり剛性（部材毎）]（テキスト入力時は、許容応力度計算データの[S A C 2]）で設定できます。

※ [弊社ホームページの Q&A](#) では、この他にも、適判等からの指摘事例の Q&A を約 380 件、通常の Q&A を 4040 件以上掲載していますので、ご活用ください。なお、Q&A の閲覧は、[トータルメンテナンス](#)をご契約中のお客様限定となります。